

公園内で見られる植物

写真は8月16日(土)
自然観察会で見られた
植物などです



ゴズイ (ミツバウツギ科)

材がもろく役に立たないので、魚の「ゴズイ」の名が付けられたという説があります。また、地方によっては春先に枝を切ると樹液があふれ出るので、「ショウベンノキ」という、不本意な名前と呼ばれているそうです。実は赤い皮に黒い種でインパクトがありますよ。



ヒルガオ (ヒルガオ科)

日当たりのよい野原や道端などに生えるつる性の多年草です。夏の昼間に花を咲かせることから付いた名。夏のこの時期、貝を採りに海岸沿いを歩いていると山側の砂地でこの花とそっくりな花をよく見かけました。「ハマヒルガオ」です。殺風景な岩場に彩りを添えるかわいらしい花でした。



ツユクサ (ツユクサ科)

花の汁を布にこすり付けて染めに使ったことから、「ツキクサ (着草)」とも呼んだそうです。

蛍が出る頃から秋まで次々と青い花を咲かせる花期の長い草です。花を付ける前の伸び切らない若葉や茎を集め、さっと茹でたら酢の物や和え物にして食べられます。また、全草を乾燥させたものを民間薬として利用するそうです。日陰のやや湿った場所を好みます。



アカメガシワ (トウダイグサ科)

新芽が赤く、カシワの葉と同じように食べ物をのせるのに使ったことからこの名が付いている。どこにでもある木なので、健康志向の人が増える中、薬効（はれもの、胃潰瘍に良いとされている）等が解明されていて、加工してお茶として商品化されているところもある。原木は平茸栽培に利用できるそうです。



コナラ (ブナ科)

雑木林を代表する木で、萌芽更新により森が若返っていたが、現代では炭や原木シイタケの材料として切る人が少なくなり、50年を越す老木が多くなった結果、ナラ枯れが問題となっている。森の食物連鎖において重要な役割を果たしているだけに早急な対策が必要だ。



ウバユリ (ユリ科)

花の頃に葉が枯れている事が多いので、「歯 (葉) が無い」の頃合わせでウバユリ (姥百合 : 姥は歯が無いらしい) の名が付いたとされています。ユリの葉は細長い葉が多いのにこれは根元から伸びていますね。球根はユリ根ですから茹でて食べられますが、市販のユリ根に比べてあまりおいしくはありませんでした。



ヘクソカズラ (アカネ科)

別名「ヤイトバナ」は花がお灸 (ヤイト) の痕に似ているからだという。非常に嫌なおいがる花であるので、最悪の名前が付いているようだが、見た目はかわいらしい花ですよね。ツル性の多年草で左巻きに伸びています。



センニンソウ (キンポウゲ科)

花が終わると花柱がのび、白くて長い毛が密生します。この花柱を仙人のヒゲにたとえたとか？白髪に例えたとか？名前の由来です。茎や葉には皮膚にかぶれをおこす有毒物質を含んでいるので、要注意。漢方では根を威霊仙（イレイセン）と呼び、利尿や鎮痛などに用いるそうです。



クマノミズキ (ミズキ科)

水木というのは、水分量の多いことから来た名で、初めて熊野で見つかったのでクマノミズキとなったそうです。ミズキに比べてクマノミズキは花も実が熟すのも1ヶ月位遅れます。葉が向かい合って生える（対生）のが大きな違いです。実の付いている枝は赤く鳥の目に付きやすいようになっていて、水分の多い実は鳥の好物のようです。



キツネノハナガサ (ハラタケ科)

傘が極めて薄い。写真では見えにくいですが、扇のひだ状の峰の部分にレモン色の粉を付けるのが特徴。柄もレモン色の小鱗片におおわれている。繊細で可憐なきのこです。



ナラタケモドキ (キジメジ科)

ナラタケに似ているが柄につばが無い点で区別される。風味はそんなに良くないが歯切れはよい。だしは出ない方で消化が悪いので、過食しないように注意が必要。